



くまののみや

令和4年10月

第123号

出雲一宮
熊野大社
崇敬会

日常の五つの心

1. 「ハイ」という素直な心。
2. 「すみません」という反省の心。
3. 「オカゲサマ」という謙虚な心。
4. 「アリガトウ」という感謝の心。
5. 「ワタシガシマス」という奉仕の心。

今年も間もなく十月十四日の例

大祭に続き十五日に鑽火祭が奉仕されます。鑽火祭は出雲大社の古伝新嘗祭で用いられる熊野大神の神火を鑽り出す燧白燧杵を出雲大社宮司自身が来社し拝受する祭典です。古伝新嘗祭は元々当社で執行されるも、戦国期以降江戸期末まで松江市大庭町の神魂神社で齋行されました。明治期の資料には、江戸期の熊野大社での鑽火器用材の確保、また鑽火器

江戸時代の鑽火器奉製等
——鑽火祭成立前史より——
熊野大社宮司 熊野 高 裕

の奉製、そして現祭典も脈々と奉仕の、社人・亀太夫の神魂神社への鑽火器持参の様子が具体的に記されています。

当時の古伝新嘗祭の齋行日は旧暦十一月の第二卯日でした。この祭典の鑽火器準備等に関しては、これまであまり知られず、この機会にご紹介しておきたいと思えます。

要約ですが明治二十五年（一八九二）編集の「古伝祭」には、

・ 三年に一度十一月一日の前日より亀太夫、その他の社人は潔斎し、翌日に伐木の神事を執行、熊野山で用材を切り出し、社殿に納めて祓いの式を奉仕する。
・ 毎年十一月一日に、三年を経た鑽火器用材を鑽火器に奉製し、亀太夫、その他の社人により完成奉告式を執行し、亀太夫が境内末社の火置神社へ納入する。とあります。そしてその続きのこと

として同年著述の「神魂神社新嘗祭」には、次のように書かれています。

十一月第二卯日の神魂神社新嘗祭前日に、出雲国造（千家国造は神魂神社神職、北島国造は伊弉諾神社神職）からの神饌が熊野大社へお供えされ、鑽火器授与の神事を執行する。亀太夫は火置神社より鑽火器を取り出し、新薦で包み、縄で結び囲め、従者二名がこれを担いで神魂神社

へ参向する。

またさらに明治二十五年の「出雲大社古伝新嘗祭式《写し》」には、

古伝新嘗祭齋行の十一月第二卯日に、出雲国造は神魂神社へ到着後、亀太夫の鑽火器持参式が奉仕される。その後その鑽火器で鑽火されて夜の古伝新嘗祭の準備がなされ祭典を迎える。

と記されています。鑽火祭は往古の熊野大社に於ける出雲国造の古伝新嘗祭での熊野大神の神霊に神火の拝受部分を大正四年（一九一五）に復旧したものです。今は、鑽火器の奉製は定まった日程ではありませんが、鑽火器は用材を鑽火器奉製の数年前から適宜準備、毎年秋を迎えたと、その年の完成物を決めて神社の方で神職が伝承の規格通りに奉製しています。ただ、燧臼の用材の確保、また概寸の裁断加工は現在叶わず、専門の職人に依頼しております。

ここに、昔の亀太夫や他社人の神社関係者の鑽火器奉製をはじめ授与に至る大きなハタラクビが偲ばれます。祭りはこの歴史も十分に心に留め、つとめたいと思えます。

秋のおおみまつり



例 大 祭 10月14日 (金曜日) 午前10時
 鑽 火 祭 10月15日 (土曜日) 午前10時

亀太夫神事

ご案内

〔氏〕 子・崇敬会員・篤信者の皆様方には、熊野大神さまの御加護のもと益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

来る十月十四日例大祭、十月十五日鑽火祭を皆様と共にご奉仕申し上げ人々の幸福、社会の繁栄、世界の平和を祈願し、働きを尽くすための御霊力を戴きたいものと存じます。

熊野大社 宮 司 熊野高裕
 〃 氏子会長 石倉憲昭
 〃 崇敬会会長 岡崎朝臣

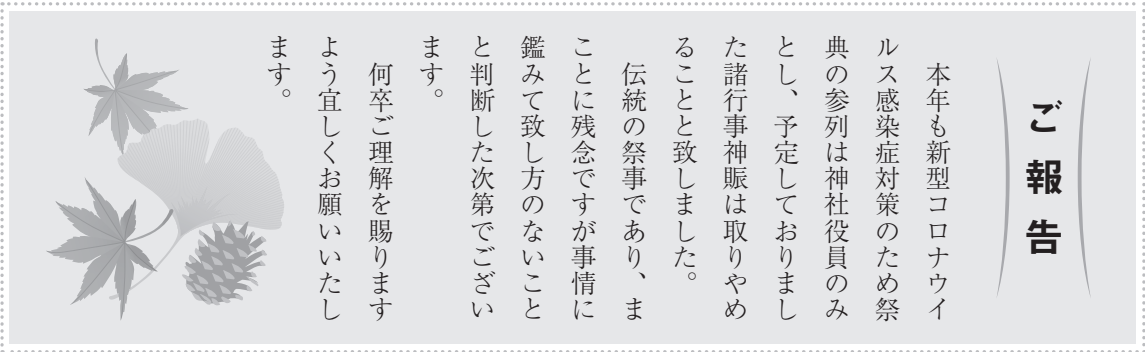
氏 子
 崇敬会員 各位
 篤信者

ご報告

本年も新型コロナウイルス感染症対策のため祭典の参列は神社役員のみとし、予定しておりました諸行事神賑は取りやめることと致しました。

伝統の祭事であり、まことに残念ですが事情に鑑みて致し方のないことと判断した次第でございます。

何卒ご理解を賜りますよう宜しくお願いいたします。



ご祈念のご案内

生命を与えて下さって日々ご守護を戴いている大神さまへ感謝の心をささげ、更に新しい生命力・御霊力を戴き、めまぐるしく変化していく現代社会を心惑うことなく正しく生きぬいていくことが出来来ますように、秋のおおみまつりにご祈念のお取次ぎをいたしております。お申込み下さい。

一、ご祈念料 伍千円以上
 (一つの願いごとにつき五、〇〇〇円以上です)

一、願いごと
 家内安全。 商売繁昌。 良縁。 会社発展。 従業員安全。 厄除。 交通安全。 身体健康。 五穀豊穰。 安産。 病氣平癒。 進学成就。 諸願成就。 海上安全。 大漁満足。 その他ご希望の願いごと。

一、ご祈念を希望されます方は同封の振替用紙に、ご住所、ご氏名、ご年令、ご祈念料を明記してお申込み下さい。

一、ご祈念をしたお守はお送りいたします。又ご参拝の際は受付所にお申し出下さい。

尚、電話、ファックスでも受付いたします。当社へお問合せ下さい。

TEL 0852-54-0087
 FAX 0852-54-0249
 です。

秋のみまつり・例大祭十月十四日(金曜日)午前十時

令和3年度 熊野大社崇敬会決算書

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

収入の部

費目	予算額	決算額	比較増減(△)	摘要
会費	5,700,000	4,924,100	△ 775,900	現会員 1,223名 4,820,000円 新会員 22名 104,100円
奉納金	200,000	265,924	65,924	「熊野の大神さま」授与料(125冊) 定額貯金満期利息 140,924円
繰越金	100,000	190,698	90,698	前年度より繰越
合計	6,000,000	5,380,722	△ 619,278	

支出の部

費目	予算額	決算額	比較増減(△)	摘要
会議費	100,000	0	△ 100,000	
事業費	4,550,000	3,787,100	△ 762,900	
1. 祭典日供神饌費	600,000	600,000	0	熊野大社奉納金
2. 神賑助成費	700,000	700,000	0	〃
3. 諸建宇保持費	600,000	600,000	0	〃
4. 広告助成費	600,000	600,000	0	〃
5. 絵馬初穂料	500,000	500,000	0	〃
6. 機関紙制作費	450,000	287,100	△ 169,900	「くまの乃宮」8,000部・印刷代 1月 2,500部・4月 3,000部・ 10月 2,500部
7. 事業資金積立金	1,100,000	500,000	△ 600,000	令和3年度積立金
事務費	1,250,000	1,090,636	△ 159,364	通信費 997,851円 印刷費 92,785円
雑費	90,000	2,000	△ 98,000	会費(鳥根県保護観察協会)
予備費	10,000	0	△ 10,000	
合計	6,000,000	4,879,736	△ 1,120,264	

収入 5,380,722円
 支出 4,879,736円
 差引残高 500,986円
 (次年度へ繰越)

上記の通り収入支出を経理致しました。
 令和4年3月31日 熊野大社崇敬会

令和三年度決算並びに
 令和四年度予算の報告
 会員の皆様方には熊野大神さまの
 ご加護を戴かれ、お健やかに幸福
 な日々をお過ごしのこととお慶び
 申し上げます。
 皆様方のお力添えによって会員
 は毎年増加して、御神縁の輪
 が愈々広まり行きますことは有難
 いことでございます。
 決算並び予算は実績に基づき経
 理計上しご報告いたします。

令和4年度 熊野大社崇敬会予算書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

収入の部

費目	本年度	前年度	比較増減(△)	摘要
会費	5,300,000	5,700,000	△ 400,000	現会員 5,000,000円 新会員 300,000円
奉納金	200,000	200,000	0	「熊野の大神さま」授与料(200冊)
繰越金	500,000	100,000	400,000	前年度より繰越
合計	6,000,000	6,000,000	0	

支出の部

費目	本年度	前年度	比較増減(△)	摘要
会議費	0	100,000	△ 100,000	
事業費	4,650,000	4,550,000	100,000	
1. 祭典日供神饌費	600,000	600,000	0	熊野大社奉納金
2. 神賑助成費	700,000	700,000	0	〃
3. 諸建宇保持費	600,000	600,000	0	〃
4. 広告助成費	600,000	600,000	0	〃
5. 絵馬初穂料	500,000	500,000	0	〃
6. 機関紙制作費	450,000	450,000	0	「くまの乃宮」8,000部・印刷代 1月 2,500部・4月 3,000部・ 10月 2,500部
7. 記念誌制作費	700,000	0	700,000	「熊野の大神さま」・ 1,000冊・印刷代
8. 事業資金積立金	500,000	1,100,000	△ 600,000	
事務費	1,250,000	1,250,000	0	通信費 1,100,000円 印刷費 150,000円
雑費	90,000	90,000	0	
予備費	10,000	10,000	0	
合計	6,000,000	6,000,000	0	

収入 6,000,000円
 支出 6,000,000円
 差引残高 0円

上記の通り収入支出を計上致しました。
 令和4年3月31日 熊野大社崇敬会

秋のみまつり・鑽火祭十月十五日(土曜日)午前十時

熊野大社崇敬会 入会のおすすめ

熊野大神の御神徳を奉戴し、
 敬神崇祖の誠を致し健全なる
 国民精神の高揚に努め広く国
 家社会の繁栄に寄与するを
 目的とし、その達成のため

- ①熊野大神の御神徳発揚の
為祭典、神事、行事及び
諸建宇整備と保持に奉賛。
 - ②会員相互の親睦を計る為
機関紙を発行。
 - ③必要とする事業を行う。
- 一、会費
 個人会費(年額)参千円以上
 団体会費(年額)五千円以上
 一、待遇

- (イ)会員誕生日は健康と繁栄
和楽を祈願、日供祭は全
会員の安寧を祈願します。
 - (ロ)春秋大祭にご案内します。
 - (ハ)新春神迎の「御神符」干
支の絵馬をお届けしま
す。
 - (ニ)会員章を差し上げます。
熊野大神さまから幸福のご
縁が戴かれますようご入会
のご案内を申し上げます。
- お知り合いの方々へのご勧
誘をお願い申し上げます。



祝詞奏上の後、御本殿にお供えした「御櫛」を宮司が奉持して稲田姫を祀る稲田神社に奉獻し、祝詞を奏上、次に拝殿に於いて巫女舞（幣舞、浦安の舞）が奉納された。次いで玉串拝礼が行われ、祭儀は恙なく終了し、お供えされた

春の暖かな日差しの中、古式にのっとりた御櫛祭を厳肅に斎行した。

四月十三日 午前十時



残念ながらコロナ感染の危険を避けるため餅撒きなどその他神賑は本年も中止となった。

櫛は境内で行われていた籤引きで当たった参拝者に授けられた。午後からは二年ぶりに御田植神事が奉納され、氏子の女子中学二年生・三年生が早乙女姿で早苗に見立てた松葉を手に、同じく氏子の若人による太鼓、笛、ササラの囃子に合わせて田植の所作を行い、今年五穀豊穰を祈った。



新型コロナウイルス感染症

1日も早い終息をお祈りいたします

元宮祭

—天宮山遥拝—

五月二十二日



木々の間を初夏のさわやかな風が吹く中、上の宮の元宮遥拝所へ登り、天宮山を遙かに拝んで元宮祭が執り行われた。

本年も残念ながらコロナ感染の危険を避けるため参列を呼び掛けることはせず、ほぼ熊野大社役員のみでの齋行となった。

遥拝所にて、登拝者全員で大祓詞を奉唱の後、齋主が祝詞を奏上、次いで代表者が玉串拝礼をして元宮祭を終了した。

ふるさとまつり 中止奉告祭

八月二十一日



本来であれば一昨年、去年中止となった第三十八回熊野ふるさとまつりが齋行される予定日であったが、七月に島根県内で千人を上回る感染者の報告が連日報道され、残念ながら齋行を断念することとなり、今年も大神にふるさとまつりが中止となったことを奉告するとともに一日も早いコロナ禍終息を願うお祭りが、ふるさとまつりを運営する予定だった各団体長の参列のもと執り行われた。

熊野大社における「コロナ対策」について

全国各地から様々な方が来られているため、参拝をされる際は次の点に御留意下さい。

- 熱のある方、体調等優れない方のご参拝はお控えください。
- マスクの着用を厳守ください。
- 手水は柄杓を撤去しておりますので流水にておねがいます。
- モノに触れる前、モノに触れた後等には設置してある消毒液をご利用ください。

- 御朱印は「書置き」にて対応させていただきます。
- 御祈念は検温・マスクの着用・出来るだけ少人数の昇殿をお願いしております。

- 祭典は神職及び関係者のみの参列とさせていただきます。
- 当社への参拝が難しい方は郵送にて御祈願・御守の授与を承っております。

マスクを着用してください



PLEASE WEAR A MASK

飛沫防止用シート設置中



AEROSOL BARRIERS IN USE

検温にご協力ください
37.5度以上の場合入場をご遠慮ください。



TEMPERATURE CHECK
NO ENTRY IF OVER 37.5°C

神社でご用意した御朱印を授与しています



LOOSE-LEAF GOSHUIN ONLY

職員のマスク着用



ALL STAFF ARE WEARING MASKS

発熱・体調のすぐれない方はご遠慮ください



PLEASE DO NOT ENTER
IF YOU HAVE A TEMPERATURE
OR FEEL UNWELL

大祓・夏越祭

―茅の輪神事―

六月三十日 午後四時

この日、随神門に氏子の方々が熊野地区内で専用に管理している茅場の茅を刈り取って作られた直径二・五メートルほどの大きな茅の輪が取り付けられ、大祓式に続

いて夏越祭を奉仕した。その昔、蘇民将來が当社御祭神素戔鳴尊より茅の輪を授けられ、疫病・災禍から逃れられたという故事に倣い、新型コロナウイルスの終息を願って早朝より多くの参拝者が随神門茅の輪をくぐり、正月から六月までの半年間に知らず知らずのうちに身についた「つみ」^〆「けがれ」を祓い清めて御神前へ進み、これから迎える夏の暑さに

献 詠

松江短歌の会

決戦の最終打者が思い切り三回振って夏から秋へ

塩田直也

競ひ合ひ四つ葉さがしし幼な日を思ひ出させる友との電話

酒井悦子

露もてる青紫蘇バツタと分け合ひてSDGsな食卓に足る

佐伯立子

マンホールの蓋の絵は二重に信号は四つに見える老の新視野

宮本美保子

祈りつつ平和の鐘を聞く朝に呼応するがに油蟬鳴く

土井郁子

十二人の布団にカレー蟬しぐれ帰郷にわきしあの日あの夏

安部歌子

雑草あらくさが稲のごとくに靡きおり米作りとうとう諦めし田に

川井恭子



も負けず、心身ともに健康で過ごさせて戴きますようにと深い祈りを捧げ、御守所で茅の輪を受けた。今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、神樂の奉納や金魚すくい、灯籠に火を灯す等の神賑は全て中止とした。

十月・十一月・十二月 おまつりの日

十月中

一日 早旦祭・奉賽祭

十四日 例大祭(午前十時)

十五日 鑽火祭(午前十時)

合祀記念祭(午後)

十六日 月次祭・奉賽祭

三十日 御狩安全祈願祭

十一月中

一日 早旦祭・奉賽祭

三日 神迎祭

四日 神在祭

十五日 月次祭・奉賽祭

十九日 神等去出祭

二十七日 新穀感謝祭

紐落し

町内外の七・五・三才のお子様、ご都合の良い日におまいり下さい。

十二月中

一日 早旦祭・奉賽祭

十五日 月次祭・奉賽祭

二十日 御煤払

三十一日 大祓・除夜祭